

神宮寺便り



外からエイサー練習の音が聞こえ、街にはエイサーののぼりが目立ち始めました。もうすぐ旧盆ですね。今年はややファウジも太鼓の音に安心して頂けると良いですね。(執筆が旧盆直前でした)

じんぐうじまつり 良啓

今年のじんぐうじまつりの詳細が決まりました。出演者、出店は基本的に過去にご協力頂いた方で進めたので、交渉がスムーズに出来て、良かったです。

令和5年10月1日(日)

稚児行列

お砂踏み所 写経体験

舞台 ウチナー紙芝居

舞台 フラタヒチアングルス

舞台 ズンバダンス

観音祭受付、甘酒振る舞い

観音祭法要

法話、曼荼羅、山田観音披露

舞台 吹奏楽演奏

火渡り行 奉納空手演武

出店は左記の通りです。

ニシユキテン(顔出し仏様体験)、柚子(和食)、花蓮(台湾料理)

宗像堂(天然酵母パン)、果菜さ屋(八百屋)、山田コーヒー

ジャカラダブル(洋菓子)

この中で、遠く岡山から参加頂く、ニシユキテン様のご紹介。

仏様になろう!と言うコンセプトで、オリジナルの顔出し

仏活動を行っている仏女の方です。SNSでご活躍を拜見して

いましたが、今回、沖縄まで来て頂けました。是非、境内で

皆様も仏様に変身してください。



蓮の花

寺務員 三原



琵琶湖のほとりにある水生植物公園「みずの森」にて真っ盛りの蓮の見学をしてきました。開花時間に合わせて朝早く訪れたのですが、蓮池で有名な公園だけあって園内にはすでに大きなカメラを携えたアマチュアカメラマン達が集まり、あちこちで蓮の撮影を始めていました。

私の背丈ほどの高さにスイカくらいの大きさの花を咲かせた巨大な蓮や、色とりどりの睡蓮の浮かぶ池のほとりの細道を、甘い香りを感じながら歩き、芥川龍之介の「蜘蛛の糸」の冒頭の情景を頭に浮かべました。

「お釈迦様は極楽の蓮池のふちを、独りでぶらぶら御歩きになっていらっしゃいました。池の中に咲いている蓮の花は、みんな玉のようにまっ白で、そのまん中にある金色の蕊(ずい)からは、何とも云えないよい匂いが、絶間なくあたりへあふれて居ります。極楽はちょうど朝なのでございませう。」ヒスイのような色をした蓮の葉の上に、極楽の蜘蛛が一匹、美しい銀色の糸をかけて居ります。」

公園の蓮の葉もヒスイに似た緑色でも大きく、中には蜘蛛が銀糸を張ったものもありました。自分が今いる場所がまさに作中の極楽の景色なのか、と感慨に浸りつつ散歩を続けました。

小説「蜘蛛の糸」では、このあとお釈迦様が蓮の間からその真下にある地獄の底を覗き、かつて蜘蛛を助けたことのある罪人カンダタに対し、慈悲の心で蜘蛛の糸を下ろし、救いの手を差し伸べます。しかし、カンダタ自身の無慈悲の行いにより、糸は彼の手元から切れ、罪人は地獄の底へ落ち戻っていくのでした。極楽の蓮の花は、このつかの間のドラマに頓着せず、ただゆるらと揺れ、あたりに良いにおいを漂わせ続けました。



仏教において蓮は悟りの象徴とされ、多くの仏画に登場します。観音様がその蕾を手を持っていることでも親しまれていますね。

神宮寺の奥の観音様の足元にも蓮池があり、その真下には普天間洞穴の先の古い洞窟が続いています。お参りの際には是非、蓮池の下に広がる洞窟の様子を思い浮かべてみて下さいね♪